

研究ガイド

令和5年6月発行 編集・文責：部会研究員

第28期は研究主題を、「考えの形成につなげる新しい時代の国語教育」とし、「読むこと」領域においての研究を進めました。授業者をはじめとし、各サークルの多彩なアイデアを生かして授業研究を進め、「構造と内容の把握」「精査・解釈」のための指導事項を明確にすることができました。

第29期となる今年度は、新「学習指導要領」で示されている言語活動のうち、「話し合い」に焦点を当てた、「話すこと・聞くこと」領域における研究となります。どのような言語活動を用いることで国語の資質・能力の目標達成実現が図れるのか、部会員の皆様の知恵を集結して研究を進めていければと考えています。（詳細は、「はまなす No.2」をご覧ください）

以下に指導案形式を提示いたします。各サークルでの研究協議にご活用ください。

（参考）

令和5年度の研究について

I 研究主題

「資質・能力を育成する言語活動の創造」

～話すこと・聞くこと教材における「言語活動」の効果的な活用を通して～

II 研究仮説

指導事項や学習内容を明確にし、学習過程を工夫することにより、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深められる児童を育てることができる。

III 研究領域

「話すこと・聞くこと」領域の言語活動を取り入れた場面

IV 研究の柱

- (1) 「内容・構成の検討」「考えの形成」における「話すこと・聞くこと」を高めるための指導事項
- (2) 「話すこと・聞くこと」を高めるために効果的な「主体的・対話的で深い学び」

V 研究方法

- (1) 令和5～6年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。
- (3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、部会研究を進める。
- (4) 実技理論研修会を開催する。

1. 指導案の統一形式

※「統一形式」には、記載すべき項目の基準を示しています。各サークルにおいて、必要に応じて項目を加除修正し、より良い指導案作成に取り組んでください。

第○学年 国語科学習指導案

作成者 ○○小 ○○○

1, 単元名「○○○○」 教材名「○○○○」

2, 単元の目標

目標：「主たる目標」：学習全体を見通して、「知識および技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について示して下さい。

言語活動：指導書より

3, 言語活動

4, 評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領〔知識及び技能〕の内容を参考に記入してください。	学習指導要領〔思考力・判断力・表現力等〕の内容（読むことの指導を参考に記入してください）。	子どもたちの主体的に取り組む姿を観察できる評価規準を考えてください。

5, 児童の実態

6, 指導する学習内容・評価事項について

- (1) 教材について
- (2) 学習内容
- (3) 主体的・対話的で深い学び

- (1) 教材のねらい、特徴などを指導書を参考に記載する。
- (2) 学習全体を見通して、指導書や、「はまなすNO.1」の「IV研究方法」の表にある、「言語活動例」を参考にしながら記入する。
- (3) 単元の中で「主体的・対話的で深い学び」をどのように位置づけるのかを記入する。

7, 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容 ★印で「主体的」・「対話的」・「深い学び」を明記。
1	「はまなすNo.1」第29期研究計画に、第28期に整理した「主体的・対話的で深い学び」の例を載せているので、それを参照しながら、学習活動に照らし合わせて★印で記載する。	★主体的
2		★ペア・対話的
3		
4		
5		★深い学び

8, 本時について

- (1) 本時の目標
- (2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入			
展開			
まとめ			

(3) 板書計画

9, 資料～ワークシートなど

2. 指導案例①

※上記の形式を踏まえ、ここでは、5年生の指導案を例として示します。

第5学年 国語科学習指導案

作成者 ○ ○ ○ ○

- 1, 単元名 「たがいの立場を明確にして、話し合おう」
教材名 「よりよい学校生活のために」

2, 単元の目標

- (1) 情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知)
- (2) 自分の考えを、事実と感想、意見とを区別して、構成を考えながら話し、それをもとに互いの立場や意図を明確にして計画的に話し合うことで、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思)
- (3) 身の回りの問題を解決するために自分の考えをもち、互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって話し合いに参加することができる。(学)

指導事項配列表にある「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力等」に沿った目標を設定する。

- 3, 言語活動 ・身の回りの問題を解決するために話し合う。

4, 評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・情報と情報の関係づけのしかた、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使っている。	・自分の考えを、事実と感想、意見とを区別して、構成を考えながら話し、それをもとに互いの立場や意図を明確にして計画的に話し合うことで、考えを広げたりまとめたりしている。	・粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。

5, 児童の実態

- ・(学力、意欲面など、全般的な実態と、国語科、話す聞く領域の実態とに分けて記載。また、身につけさせたい力を併せて記述する。)

6, 指導する学習内容について

(1) 教材について

- ・児童の身近で解決できるものを話題とすることで、児童が意欲的に話し合いに参加することができる。そのとき、多様な立場から意見がもてるよう議題を工夫したい。児童にとって・・・(以下省略)

(2) 学習内容

- ・互いの立場を明確にして話し合い、意見をまとめる学習を行う。考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いの段階を意識して話し合いができるようにする。
- ・考えを広げる話し合いでは、お互いの立場を明確にしながら考えを伝え合い、質疑応答を通してよりお互いの考えを深めていく。…（以下省略）
- ・考えをまとめる話し合いでは、互いの意見の共通点や異なる点に着目し、分類したり関連付けたりすることで、班としての一つの案にまとめていく。立場が違っても話し合いを通して歩み寄ったり、…（以下省略）

(3) 主体的・対話的で深い学び

★主体的

- ・単元の導入で、学習計画について見通しをもち…。また、話し合いの素材となる自分の考えをもち…。最後に、ほかのグループの発表を聞き、学習を振り返ることで、単元で学習したことや自分の変容に…。

★対話的

- ・話し合いの進め方をグループでシミュレーションすることで…。実際の話し合いでは、互いに質問することで意見交流を深めたり、互いの意見の良さや違いを認めつつ、よりよい1つの案にまとめていくことで…。

★深い学び

- ・今まで、生活のあらゆる場面で、何気なく話し合いの場をもってきたが、その1つの方法として、よりよい意見をまとめていくための話し合いの手順を学ぶ。知識として裏付けされた話し合いの方法を、グループでの話し合いで実践し、技能として習得することが…。

7. 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	・互いの立場を明確にして話し合うという学習課題を捉え、学習計画を立てることができる。	・学校生活の中で課題に思っていることを出し合って活動のイメージをもち、学校生活の改善に向けた案を考えるために、よりよい話し合いのしかたを学習していくことを知る。 ★主体的
2	・学校生活を振り返って課題を考え、話し合って議題を決めることができる。	・個人思考、グループ集約、全体集約の手順で、話し合いの議題を決め、話し合いの進め方を理解する。
3	・議題について考えを書き出し、分類したり関係づけたりして、自分の意見をまとめることができる。	・議題について考えたことを、思いつくままに個人で書き出し、それを、問題点、解決方法、そう思う理由の3つの観点で分類し、自分の考えを整理する。 ★主体的
4	・立場を明確にして話し合う方法を捉え、役割や進行のしかたを決めることができる。	・グループの中で、それぞれの考えを伝え合って考えを広げ、まとめていく話し合いの仕方を学習する。 ・話し合いを進める際の役割を決め、シミュレーションを行う。 ★グループ・対話的

5 (本時)	・互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。	・各グループで司会者が話し合いを進め、記録者は話し合いの様子を記録をとる。 ・まずは個人の考えを伝え合ったり質問し合ったりして、考えを広げる。次に、共通点を見出し、条件を設定してグループとしての考えをまとめる。 ★グループ・対話的★深い学び
6	・立場を明確にした話し合いについて、学習を振り返って、考えをまとめることができる。	・グループで話し合った解決策を報告し合い、自分のグループとほかのグループの考えを、比較しながら聞く。 ・話し合いのしかたについて気づきや感想を共有する。 ★主体的

8. 本時について

(1) 本時の目標

互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入	1 前時までの確認 ・自分の考えを付箋に書いた。 ・話し合いの仕方を学習した。 2 学習課題の確認 ① たがいの立場を明確にしながら計画的に話し合おう。	○付箋に書いてあることを確認し、自分の考えを確認させる。 ○自分の意見が相関図のどこになるかを考え、立場をはっきりさせる。	○相関図を提示。縦軸横軸は指定しておく。
展開	3 話し合いの工夫の観点を確かめる。 ① 個人の考えを伝え合い、考えを広げる。 ② それぞれの意見を整理し、グループの案を1つにまとめる。 4 考えを広げる話し合い ① 各自が考えた解決策を発表する。 ② 司会者は質問がないかグループのメンバーに問う。 ③ 記録者は、各自の考えや質疑の内容をメモする。 5 考えをまとめる話し合い	○事実と考えを分けて話すことや、質問により話を深めることを確認する。 ○共通点や異なる点をはっきりさせ、条件を決めた上で1つの考えにまとめることを確認する。 ○付箋に書いた自分の考えを各自が発表するよう促す。 ○話が深まるように、質問例を見ながら取り組ませる。 ○記録する際の観点を示す。	○前時に学習した話し合いの仕方を教室掲示しておく。 ○3時目に書いた付箋を使用する。 ○質問例や記録の観点を教室掲示しておく。 ④ 自分の立場を明確にして考えを伝えているか。

	① 共通点や異なる点をはっきりさせる。 ② グループとしての意見をまとめるために、条件を決める。 ③ 条件に沿ってグループの意見を一つにまとめる。	○付箋を相関図上で分類し、共通点と異なる点を見つけさせる。	評 それぞれの考えの共通点や異なる点に着目しながら、よりよい意見としてまとめているか。
まとめ	6 本時の振り返り ① 話し合いチェックシートを使って、自分の参加の仕方について振り返り、気付いたことを書く。 <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> ㊟ グループで話し合いをして、自分とは違う考えもあったけど、色々な考え方があることがわかった。 </div>	○①自分の意見を伝えられたか ②考えを広げるために、質問ができたか。 ③考えをまとめるために、共通点や異なる点をみつけることができたか。	※まとめについては、一人一人が話し合いを通して学んだことを書くことができればよいと考える。 また、本時の内容によっては、必ずしもまとめとしてノートに残さなくてもよいと考える。

(3) 板書計画 (省略)

9, 資料～ワークシートなど (省略)

2. 指導案例②

※上記の形式を踏まえ、ここでは、2年生の指導案を例として示します。

第2学年 国語科学習指導案

作成者 ○ ○ ○ ○

1, 単元名「みんなで話をつなげよう」
教材名「そうだんにのってください」

2, 単元の目標

- (1) 身近なことや経験したことなどから話題を決めて話し、互いの話に関心をもって聞き、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思)
- (2) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。(知)
- (3) 見通しをもって学習に取り組み、相談したい事柄を見つけたり、相手の発言を受けて話をつないだりして、積極的に話し合いに参加することができる。(学)

指導事項配列表にある「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力等」に沿った目標を設定する。

3, 言語活動 ・グループで相談する。

4, 評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。	・身近なことや経験したことなどから話題を決めて話し、互いの話に関心をもって聞き、相手の発言を受けて話をつないでいる。	・積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

5, 児童の実態

- ・（学力、意欲面など、全般的な実態と、国語科、話す聞く領域の実態とに分けて記載。また、身につけさせたい力を併せて記述する。）

6, 指導する学習内容・評価事項について

（1）教材について

- ・本単元は、話し合いの基礎を学ぶ単元となっている。そのため、話題の設定が学習の進めやすさのかぎとなってくる。誰もが参加できる話題、子どもの力でも解決できる話題、話してよかったと思える話題など…、（以下省略）

（2）学習内容

- ・話し合いの基礎となる、相手の話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ力を身につけさせる。「友達の相談事に考えを出し合う」という話題設定で、相手の困りごとを受け止めたうえで、関連した発言をすることで話をつなぎ、拡散的な話し合いの…。
- ・質問する、復唱して確かめる、共感の気持ちを表すなど、友達の発言の情報をしっかりと受け止め理解することで…。

（3）主体的・対話的で深い学び

★主体的

- ・単元の導入で、この単元ではみんなで話をつなげる学習をすることを知り…。また、単元の終わりには、この単元で学んだことを振り返り…。

★対話的

- ・話題を考えるのは当然個人の作業になるが、話題が思いつかない児童や、適切でない話題を設定してしまう児童がいることが考えられる。そこで、ペア交流を取り入れ…。
- ・教科書に示されている話し合いのポイントを参考にしながら、実際の話し合いの場面では、基本を押さえた話し方・聞き方を…。

★深い学び

- ・本単元では、話し合いの仕方を学ぶので、その知識を実践する場が実際の話し合いといえる。学習したことを生かして話し合い活動を行うことで、話し合いの基礎を…。

7, 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	・学習の見通しをもち、関心をもって相談ごとの話し合いに取り組もうとすることができる。	・教科書を見て学習の進め方を確認し、どんなことについて相談したいかを考えて書き出す。 ★主体的
2、3	・相談するにあたって、ふさわしい話題を決めることができる。	・相談する話題を決めるときの注意点を確認し、自分が相談してみたい内容を決定する。 ・ペア交流や全体交流の場面を設定し、話題を決めるヒントにしたりふさわしい話題かどうかを考えたりする。 ★ペア・グループ・対話的
4、5	・話をつなげるために、話し合いのしかたを理解することができる。	・教科書や映像資料を見て、話し合いの進め方を確認する。 ・よい話し合いの仕方について、話す人、聞く人それぞれのポイントをまとめる。
6、7 (本時)	・相談に関心をもち、自分の考えを話すことで話をつなげることができる。	・学習したことを生かし、グループごとに話し合い活動をする。グループ全員の相談が終わったら、話し合いをしてみてよかったところを話し合う。 ★グループ・対話的★深い学び
8	・話し合ってよかったことやできるようになってことを振り返って、これからの学習に生かそうとすることができる。	・話し合いをしてみてよかったことや、できるようになったことを書き、交流する。 ★主体的

8, 本時について (2 時間扱い)

(1) 本時の目標

相談に関心をもち、自分の考えを話すことで話をつなげることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入	1 前時までの確認 ・話し合いの仕方を学んだ。 ・相談する話題を決めた。 2. 学習課題の確認 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;">② 話し合って、考えを出し合おう。</div>	○自分の話題を確認させる。	○既習事項を掲示しておく。
展開	3. 話し合いの手順を確認 ①相談する人が話題を提示する。 ②グループの人が、一人一人の相談ごとに対する意見を言う。 ③相談した人が、最後にどうすることにしたかを話す。	○相談者の話型を提示する。 ○自分の意見を言うだけでなく、復唱、共感、質問などすることを確認する。	○話型を書いたプリントをグループに1枚配布する。

	<p>4. 話し合いをする</p> <p>①グループの中で、順番に相談者の役割をして話を進める。</p> <p>5. グループで振り返り</p> <p>①観点ごとにグループで振り返りをする。</p> <p>6. 振り返りの交流</p> <p>①グループごとに、発表する。</p>	<p>○話し合いがうまく進んでいないグループがあれば、支援する。</p> <p>○振り返りの観点を提示する。</p> <p>① 学習した方法で話し合いができたか。</p> <p>② 共感、質問したりして、話をつなぐことができたか。</p> <p>③ 相談内容を解決することができたか。</p>	<p>評 友達の考えに共感したりしながら、自分の考えを伝えているか。</p>
まとめ	<p>7. 個人で振り返り</p> <p>①話し合いチェックシートを使って、自分の参加の仕方について振り返り、気付いたことを書く。</p>	<p>○①相談したいことをきちんと伝えられたか。</p> <p>②相談者として、最後にどうすることにしたかを伝えることができたか。</p> <p>②相談者に対して、意見を言うことができたか。</p>	<p>※まとめについては、一人一人が話し合いを通して学んだことを書くことができればよいと考える。</p> <p>また、本時の内容によっては、必ずしもまとめとしてノートに残さなくてもよいと考える。</p>
	<p>㊟ 友だちの考えを聞いて、自分が相談したいことを解決できた。</p>		

(3) 板書計画 (省略)

9. 資料～ワークシートなど (省略)

以上が、指導案形式のガイドラインです。これをもとに各サークルで検討を重ね、実践内容にふさわしい形式に修正していただければと思います。